

【特別支援学校用】

令和2年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立伊万里特別支援学校
1 前年度 評価結果の概要	職員一人一人が、各学部や分掌で設定した目標に向かって努力し、評価としては概ね良好であった。「キャリア教育全体計画を踏まえた授業づくり」「施設的安全管理の徹底」「交流及び共同学習の実施」については、評価がBであった。また、学校評議員から、資料の提示や対応等に不備があったところのご指摘もあり、次年度は改善できるように取り組みたい。今年度は、業務改善・働き方改革を推進すべく、定時退勤日や休憩時間の見直し、職員会議の精選などの取り組みを行ってきたが、まだ定着はしていない。学校業務のスリム化によって、児童生徒と向き合う時間を確保し、少しでも長時間労働を解消していく必要がある。次年度以降、具体的な運用の中で、新たな課題を見直し、職員の意見を参考にしながら、調整をどれだけ行っているのかが重要なポイントである。
2 学校教育目標	将来の社会生活を見据え、自立を目指して児童生徒個々の特性に応じた教育を行う。

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の特性と教育的ニーズの把握に努め、個に応じた教育計画・実践の充実を図る。</li> <li>健康・安全教育の充実を図り、安全・安心な教育環境を確保する。</li> <li>進路指導の充実にも努め、キャリア教育の実践を積み重ねて卒業後の自立的な社会生活をを目指す。</li> <li>児童生徒の主体性を尊重し、「明るく」「素直に」「元氣よく」「たくましく」生きる力を育む。</li> </ol>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○「個別の指導計画」における自立活動の指導及び評価が適切に行われたと回答する教員80%以上 ○「特別支援教育の専門性が向上した」と回答する教員80%以上	・指導内容及び方法、評価等を適切に実施することにより、効果的な学習につながる。 ・専門性の向上に必要な教員研修等となるように、研究・研修担当を中心に内容等の精選と充実を行うとともに、計画的に実施する。							自立活動部・研究研修部
	○児童生徒一人一人の自立と社会参加に向けた教育の推進	○児童生徒一人一人が、「できた」「わかった」とより実感することができるような授業づくりや授業改善に向け、各学部において、授業公開や研究授業、事例研究会等を年3回以上実施する。	・各学部におけるめざす子ども像を明確に定めるとともに、学校全体のキャリア教育全体計画を踏まえ、一人一人に応じた目標を設定し、日々の指導を行う。							教務部・研究研修部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会的、倫理的や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○全ての児童生徒が安心して学校生活を営めるように保護者とも協力して、いじめを見逃さない体制づくりを推進していると回答する教員80%以上	・日頃から、児童生徒と職員の間を密にし、いじめのサインを見逃さないように心身の把握をする。							生徒指導部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防衛委員会を年1回以上実施し、いじめの定義等を再確認し、早期発見、早期対応ができるように努める。 ○年2回のアンケート調査を行う。	・学級活動や生徒会活動を通して、いじめのボスターや組織を作成し、学校全体の雰囲気作りに取り組む。							生徒指導部
	○児童生徒が夢や希望を持ち、将来の自立と社会参加に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○児童生徒の将来の自立と社会参加を見据えた指導・支援ができていると回答する職員80%以上。	・小学5年以上の生徒の保護者に進路希望調査を行い、福祉サービスや事業所の取り組み等のニーズを把握して進路研修会を開催する。							進路指導部
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒50%以上	・給食の栄養状況や、日々の問いかけにより児童生徒の食への関心を把握する。							保健安全部
	○身体を動かす機会を増やす	○1日1回以上、朝の運動や散歩などに取り組む。肢体不自由児には毎日ストレッチを行う。	・各学部の体育担当者間で、運動場や体育館の使用について、連絡と調整を行い朝の運動の確実な実施をする。							学部主事・各学部体育担当
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター機能の充実	○地域の幼稚園・保育園・小学校・中学校・高校へのとの連携を図り、各園・学校の担当者の専門性の10%アップを目指す。	・特別支援教育コーディネーターの助言や具体的取組内容を各園・学校の担当者が実施できるよう、継続的な指導を行う。							相談支援部
	○学校間交流及び共同学習の実施	○小学部は小学校と18回、中学部は中学校と1回の学校間交流を行う。	・実施前に相手校、家庭と充分に連絡を行い、活動内容について協議や、事前指導、事前事後の学習も含め、組織的・計画的な交流を行う。							教務部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○時間外勤務時間を前年度比2時間削減する。	・職員が作成した教材をデータベース化して蓄積し、効率的に活用することで、作成のための時間短縮を図る。							管理職
	○職員会議や学部会の効率的運営	○会議時間45分の徹底	・事前に資料を配付し、連絡・報告事項は会議では行わず、協議が必要な内容のみの審議を行う。							管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○感染症の予防対策の徹底	○1回発症の保健だよりで、コロナウイルスやインフルエンザ、感染性胃腸炎等の情報を各家庭だけでなく、福祉サービス等にも提供する。	○ウイルス感染防止のため、教室や他の施設のアルコール、塩素系除菌剤による消毒を徹底し、100%の感染防止に取り組む。	・毎日、教室は放課後、他の施設は使用後に、担任や学年団で消毒を行う。							
○進路指導とキャリア教育の推進	○進路情報の提供と活用及び就業・施設体験	○地域企業と連携した学習を実施する。 ○事業所による研修会を実施する。 ○中学部3年と高等部生徒全員が校内又は校外において就業・施設体験を実施する。	・進路情報をデータ化し、活用を促進する。 ・事業所による研修会を実施する。 ・中学部・高等部は職場見学を実施する。 ・中学部は2学期に2週間、高等部は1学期に2週間、2学期に3週間の就業・施設体験を実施し、両学部とも報告会で体験発表を行う。							進路指導部
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										
5 総合評価・次年度への展望										